



# 村小だより

令和2年2月14日発行

## 「引継ぎ、つなぐ」 地域も学校も

校長 鈴木 正美

経験したことのない極少雪、極暖の今年の村上の冬。随分日が長くなった「節分」、「立春」を過ぎたころになって、ようやく厳しい寒さ(真冬)が訪れ、少々ほっとした気持ちになりました。学校の児童玄関脇の水槽では、「命のリレー」として村上東中からいただいた鮭の発眼卵がふ化し、かなり動き回るくらい、元気に育っています。放流までの間、さらに大きくなるよう4年生が育てています。様々な動きに「春」を感じる時節となりました。

今年も「初午」(2/9)には、関係する町内で「御利生(ごりしょ)」が行われました。そのやり方は、家内安全や商売繁盛を願い、太鼓を叩いてふれ回り、狐に扮した子どもたちが家々で踊ったり、御札を配ったりと各町内で様々なようです。いくつかの町内の様子を垣間見ましたが、大人の手を借りながらも、自分の役目に一生懸命取り組む姿が見られ、嬉しくなりました。

学校でも「感謝の気持ちを伝えよう」と次期リーダーとなる5年生の企画による全校での様々な活動が始まっています。そして、そのフィナーレである「6年生を送る会」(2/21)を成功させるべく、各学年も準備を進めているところです。

こうして学校では、子どもたちは「感謝と引き継ぎ」、教職員は、次につなぐための「まとめ」と「計画づくり」に本格的な仕上げに入っていきます。

年度の締めめの時期、変わらぬご支援、ご協力をよろしくお願いいたします。

< 2月全校朝会：校長講話「節分と豆まき」から >

「節分」は、春・夏・秋・冬の4つの季節とともに関係があります。暦の上で、それぞれの季節が始まる日を「立春」「立夏」「立秋」「立冬」と言いますが、この新しい季節になる前の日を「節分」と言うのだそうです。つまり、「節分」とは、春・夏・秋・冬、この4つの季節の分かれ目の日なのです。言うことは、「節分」は、1年に4回あるのです。

でも、皆さんの家では、それぞれの節分に「豆まき」をしているのでしょうか。しないですね。豆まきするのは、2月の「立春」前の「節分」だけ。どうしてなのでしょう。

それは、昔は2月の「立春」から新しい年が始まっていたため、4つの節分の中でも、2月の「節分」は、とても大切な節目の日だったのです。今で言うと12月31日、大晦日にあたるわけなので、新年に福(幸せ)を呼ぶために、悪いことを起こすものをはらう、様々な行事が行われるようになり、やがて、「節分」と言えば、2月の「節分」のことを言うようになったのだそうです。

また、豆まきをするは、昔は災害や病気など目に見えない恐ろしい出来事は鬼や悪魔のしわざであり、特に新しい年や季節の変わり目に鬼や悪魔がやってきやすいと考えられていたため、2月の「節分」に豆をまいて退治するようになったのだそうです。

「鬼や悪魔の目をねらって、滅する」ことから「魔目、魔滅」で「豆」をまくのだという説もあるようです。